

# 映像民俗学事始め

一九七四年、社会人類学の野口武徳<sup>のくちまたけのり</sup>、民俗学の宮田登<sup>みやたののり</sup>、ドキュメンタリー映画監督の野田真吉<sup>のだまこと</sup>と私の四人で「映像民俗学を考える会」を作り、四年後の七八年に「日本映像民俗学の会」として正式に発足させた。「映像民俗学」という言葉を使ったのは多分日本で最初だろう。「学会」としないで「学の会」としたのは、宮田さんのこだわりで、研究者だけでなく誰でも参加でき、地域の生活や文化を記録、享受できる会にしたいという考えからだ。発起人の三人はすでに鬼籍に入り私だけが残っているが、多くの研究者や映画人、一般人らが新たに加わり、来年で四〇周年を迎える。毎年日本のどこかに出かけて行き、その地域の映像特集を組み、論議する。来年三月は松本市浅間温泉の神宮寺で「死者と生者の通い路」をテーマに、日本やアジア・アフリカの死と葬送儀礼、他界観を描いた映画を集める。

欧米では一九七〇年代以降、映像人類学が風靡<sup>ひび</sup>して数多くの映画が作られたが、日本ではカメラを持つ研究者は少数だった。学問が細分化、専門化して、人間の営みをトータルに見ることを忘れたように私は思った。人間をビヘイビア(行動)としてとらえ、生活、風土、環境を含めて描くことのできる動画は、研究者にとっても大切な道具ではないだろうか。

私は映画やテレビ番組を作ることを生業にしてきた。沖縄や東北など日本の他、韓国、中国、インド、チベットやヒマラヤ、黒潮文化圏と地域を絞って取り組んで五〇年になる。それぞれの生活の根っこを明らかにしたいと思つてやつてきた。人の営みの古層を捉えておけば、時代が経つても古くはならない。むしろ価値が出ると考えてきた。

神の島といわれる沖縄の久高島では、一九六六年から撮影をしている。二一年に一度行われるイザイホーを始め、年中行事の三〇以上を撮ってきた。白衣を着て島中の女性が参加していた行事はここ十数年で壊滅状態になっていった。このままではいけないと、一台のパソコンに全行事・全映像を入れて島に寄贈しようと、研究者と一緒に続けている。とりあえず六〇時間、五三〇〇カットに文字情報を入れて、観られるようにしてお渡しした。毎月一回の上映会に来るお年寄りは若き自分の姿を見、亡くなったお婆たちを思つて涙した。初めて行事を見る若者たちは、島のアイデンティティーはここにあると喜んでくれた。映像民俗学、映像人類学はこれからだ。

## 北村 皆雄<sup>きたむら みなお</sup>

プロフィール  
 1942年長野県生まれ。映画監督、映像民俗学者、早大アジア研究所招聘研究員、一般社団法人日本映像民俗学の会代表、ウイジュアルフォークロア代表、映画「久高島」「見世物小屋」「修験」「ほかいびと」「異界婚」。TV「チベット大河紀行」(NHK「チヨランマの渚」)TV朝日40周年記念。プロデュース作品でギャラクシー選奨、放送文化基金本賞。著作「俳人井月——暮末維新風狂に死す」(岩波書店)。

## 月刊 みんなぱく

12月号目次

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 エッセイ 千字文<br/> <b>映像民俗学事始め</b><br/>                 北村 皆雄</p> <p>2 人類学的営みにおける映像の今<br/>                 川瀬 慈</p> <p>4 学術メディアとしての映像の課題<br/>                 飯田 卓</p> <p>6 民博スタイルの民族誌映画<br/>                 寺田 吉孝</p> <p>8 映像で学ぶコミュニケーションリテラシー<br/>                 ——大学教育の現場から<br/>                 南出 和余</p> <p>9 民族誌映画の「創造的劇化」<br/>                 分藤 大翼</p> <p>10 ○○してみました世界のフィールド<br/> <b>ドイツのポップカルチャー市場調査——2日目</b><br/>                 山中 由里子</p> | <p>12 みんなぱく Information</p> <p>14 味の根っこ<br/> <b>ピカロン</b><br/>                 八木 百合子</p> <p>16 文化遺産おもてうら<br/> <b>「東西文化の交流点」で</b><br/> <b>——ロシア連邦ボルガル遺跡を巡るポリティクス</b><br/>                 櫻間 瑛</p> <p>18 手芸者<br/> <b>インドの「ハンディクラフト」</b><br/>                 金谷 美和</p> <p>20 ながなんちゃ<br/> <b>「ラフラン諸島」ってどこ?</b><br/>                 山本 泰則</p> <p>21 次号予告・編集後記</p> |
|---|---|